

家畜の伝染病の 侵入防止への 協力をお願い

STOP

今、世界では^{アフリカ}アフリカ豚熱と^{口蹄疫}口蹄疫という家畜の伝染病のまん延が大きな問題となっています。
これらは、肉製品や衣服、靴などを介して感染拡大します。
これらが日本に侵入すれば、畜産物の安定供給に深刻な悪影響を与えるおそれがあります。
国内への侵入を防ぐため、皆様の協力が必要です。

01 アフリカ豚熱、口蹄疫とは

^{ぶた ねつ}アフリカ豚熱 (ASF)



特性

- 致死率はほぼ100%（甚急型、急性型の場合）
- ウイルスは長期間にわたって環境中に生存（冷凍なら1,000日以上も）
- pl 14～11でも、血液や糞便中でも、豚肉や加工品（塩漬ハム等）の中でも生存できる

予防・治療

有効な治療法や予防法はない、ワクチンはない

損害

中華人民共和国で死亡・殺処分により飼養頭数が4割減り、豚肉価格が2倍以上に（2019年の事例）

^{こうていうま}口蹄疫 (FMD)



特性

- 口や蹄にできた水疱が痛くてエサを食べなくなり、産業動物としての価値が著しく低下
- ウイルスの感染力が極めて強い
- 空気感染する（風に乗って60km以上離れた農場に移った例も）
- 豚1頭が1日に排出するウイルス量は牛を最大1,000万頭感染させる量に相当

予防・治療

有効な治療法はない、ワクチンはあるが感染自体は防げない

損害

過去に国内で30万頭の牛・豚を殺処分し、2,350億円の被害
（2010年の発生に関する宮崎県の試算、関連産業含む）

※ いずれの病気も人への感染の心配はない※

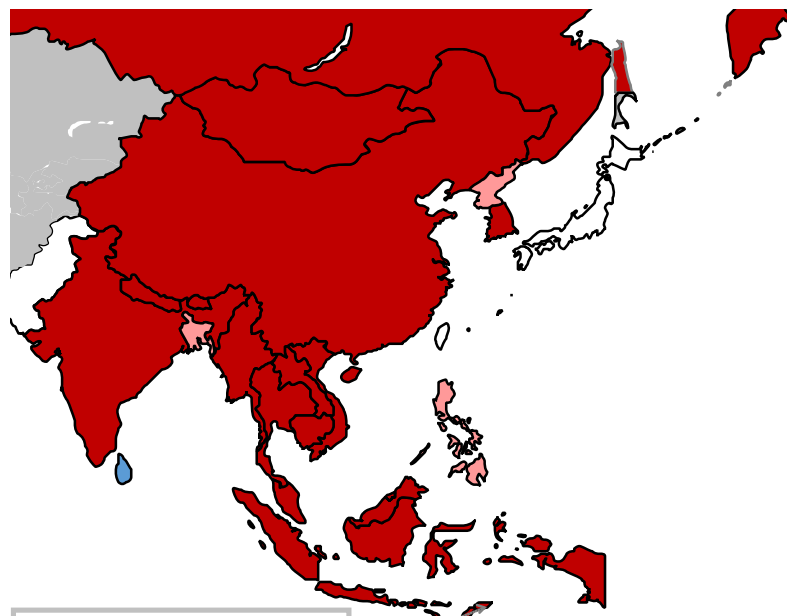
注：海外では口蹄疫ウイルスに極めて濃厚に接して感染した事例がごくまれに報告されるが、通常の生活の中で人に感染することはない。
万が一感染した場合は軽い発熱や口内炎になる程度で速やかに回復し、死亡例はない。

02

アジアでの発生状況

- アフリカ豚熱は、2018年に中国に侵入後、アジア各国に拡大。
- 口蹄疫は、多くの国で継続的に発生。
- いずれの病気も発生していないのは日本や台湾などごく限られた国・地域※。

※ 日本や台湾では過去に口蹄疫が発生したことがあるが、その後清浄化している。



アフリカ豚熱の初発生年

国・地域名	初発生年
中国	2018年
香港、モンゴル、北朝鮮、韓国、ベトナム、ラオス、カンボジア、フィリピン、ミャンマー、インドネシア、東ティモール	2019年
インド	2020年
マレーシア、タイ、ブータン	2021年
ネパール	2022年
シンガポール、バングラデシュ	2023年

口蹄疫発生国・地域

国・地域名	発生年
中国(2)、ロシア(1)、ベトナム(28)、カンボジア(41)、マレーシア(21)、タイ(41)、インド(105)、ブータン(21)、ネパール(40)、モンゴル(02)、スリランカ(36)	2021年
中国(1)、カンボジア(24)、タイ(109)、マレーシア(28)、インドネシア(不明)、インド(103)、ブータン(3)、ネパール(66)、モンゴル(3)、スリランカ(57)	2022年
中国(4)、韓国(11)、ネパール(15)、カンボジア(3)、マレーシア(1)、インドネシア(不明)	2023年

注：発生年不明、あるいは初発生年ではない年が数字で示されている国・地域は、発生年が不明であるか、発生年が複数ある可能性がある。

03

侵入を防ぐためにできること

1 海外から肉の入った食品を持ち込まない

- 感染した肉を動物が食べると感染
- 不法持込された肉製品から生きたアフリカ豚熱ウイルスを発見

持込禁止



2 野外に肉の入った食品を捨てない

- ハイキングのお弁当やバーベキューの食べ残し、ごみからも感染
- アフリカ豚熱に感染した肉の入っていたトレーをイノシシが舐めただけで感染
- 海外では野生イノシシでアフリカ豚熱がまん延し、根絶が困難に

野外放置禁止



3 帰国後1週間は動物に近づかない

- 豚や牛についたウイルスを介しても感染



アフリカ豚熱ウイルスの侵入を防ぐためのお願い

侵入経路 ①

肉類に付着



- ☑ 肉の入った食品を
国内に持ち込まない



- ☑ 肉の入った食品を
野外に捨てない



侵入経路 ②

人に付着



- ☑ 海外では
 - ・靴などについた土は落とす
 - ・動物がいる施設に行かない



- ☑ 空港では指示に従って消毒



- ☑ 国内では
 - ・帰国後1週間、観光牧場等に行かない
 - ・家畜がいる施設に近づかない
 - ・野生イノシシや鹿・猪に近づかない



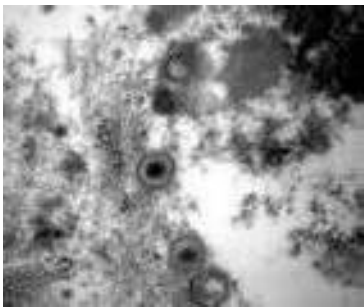
農林水産省

ぶたねっ アフリカ豚熱 (ASF)

アフリカ豚熱ウイルスが原因で、豚やイノシシがかかる病気です。発熱や全身の出血性病変を特徴とする致死率の高い伝染病です。

1909年にケニアで初めて確認され、アフリカや欧州で広く発生したのち、2018年8月にはアジアで初めて中国での発生が確認され、その後アジア各国に拡がりました。

現時点で有効なワクチンや治療法はなく、感染すると致死率ほぼ100%。これまで日本での発生はありませんが、日本に近い韓国でも発生が相次いでおり、いま最も日本への侵入を警戒している病気です。



アフリカ豚熱ウイルス



豚・イノシシ



死亡



元気消失



肛門からの出血



チアノーゼ



下痢

感染が拡がった中国では豚の飼育頭数が一時約4割も減り、豚肉価格が2倍以上にまでなったといわれています。（2019年の事例）

こうていえき 口蹄疫

口蹄疫ウイルスが原因で、偶蹄類の家畜（牛、豚、山羊、綿羊、水牛など）や野生動物（ラクダやシカなど）がかかる病気です。

口蹄疫は偶蹄類動物に対するウイルスの伝播力が非常に強く、畜産業のみならず、社会・経済に及ぼす影響が大きいことから、世界で最も恐れられている家畜の伝染病の一つです。



口蹄疫ウイルス



偶蹄類の動物

口蹄疫に感染すると、発熱したり多量のよだれを出したり、口の中や蹄のつけ根、鼻などに水疱（水ぶくれ）ができたりするなどの症状が現れます。

感染した動物は、多量のウイルスを排出し、またたく間に感染が広がっていきます。



鼻にできた水疱



蹄にできた水疱



多量のよだれ



舌にできた水疱・びらん



平成22年に宮崎県で口蹄疫が発生した際には、家畜伝染病予防法に基づき、約90万頭の家畜が殺処分されました。